



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月13日

上場取引所 大

上場会社名 ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社

コード番号 6819 URL <http://www.social-eco.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 守谷 隆志

問合せ先責任者 (役職名) -

(氏名) -

TEL 03-5786-3900

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	1,147	△4.0	24	△41.9	20	△59.8	131	186.6
24年3月期第2四半期	1,194	△7.1	42	—	51	—	45	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 143百万円 (298.1%) 24年3月期第2四半期 36百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	6.12	—
24年3月期第2四半期	2.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	1,163	272	23.4
24年3月期	1,140	129	11.3

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 272百万円 24年3月期 129百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,144	2.1	△34	—	△28	—	82	69.6	3.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	21,496,537 株	24年3月期	21,496,537 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

25年3月期2Q	17,373 株	24年3月期	17,123 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	21,479,318 株	24年3月期2Q	21,480,354 株
----------	--------------	----------	--------------

当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「経営成績に関する分析」をご覧ください。

・当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期(及び当期)純利益金額を算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14
(7) 重要な後発事象	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州や中国など海外経済の減速の影響を受け、景気下振れ懸念が払拭されず、企業の設備投資は本格回復する状況にいたりませんでした。また、為替水準が円高で推移し、株式市場の株安も長期化しております。平成23年3月11日に発生した東日本大震災の復興需要等を背景に緩やかな回復基調となっておりますが、依然として先行きに不透明感が続いております。

このような状況下、当社が展開するレジャー事業におきましては、集客数及び売上高とも前年よりも減少しております。

映像・音盤関連事業におきましては、広告業界が依然として低迷しているため、連結子会社である株式会社FLACOCOは、営業損失を計上しております。

投資事業においては、引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。

以上の結果、当第2四半期累計期間は、売上高11億47百万円（前年同四半期に比べ4.0%減）、営業利益24百万円（前年同四半期に比べ41.9%減）、経常利益20百万円（前年同四半期に比べ59.8%減）、四半期純利益1億31百万円（前年同四半期に比べ186.6%増）となりました。

当第2四半期の概況を部門別に示すと、次のとおりであります。

(レジャー事業)

当第2四半期連結累計期間におけるレジャー事業につきましては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する伊豆シャボテン公園では「ウルトラマンイベント2012in伊豆シャボテン公園」や「幻想空間 わくわくナイトツアー2012」などのイベントを開催いたしました。伊豆ぐらんぱる公園では新アトラクションとして、ランニングバイクやBMX自転車のお子様向け自転車コースによる「わんぱくライダーPark」のオープン、「伊豆ぐらんぱる探検隊vol.2トレジャーハント財宝“X”と幸せの女神」などのイベントを開催いたしました。伊豆四季の花公園では「ちびっこ宝探し」、「大好評!あじのつかみどり!」などを開催し、大変ご好評をいただきました。

この結果、レジャー事業においては、売上高10億92百万円、営業利益52百万円となりました。

(映像・音盤関連事業)

当第2四半期連結累計期間における映像・音盤関連事業につきましては、株式会社FLACOCOによるCM制作による売上や当社グループが保有するコンテンツの二次使用による著作権収入がありました。当第2四半期における映像・音盤関連事業における営業損失は、広告業界の厳しい環境の影響から、当社の子会社である株式会社FLACOCOの売上が減少したことが影響しております。

この結果、映像・音盤関連事業においては、売上高55百万円、営業損失21百万円となりました。

(投資事業)

当第2四半期連結累計期間における投資事業につきましては、具体的な投資案件はありませんでした。

この結果、投資事業においては、売上高はありませんでした。

(その他)

当第2四半期連結累計期間におけるその他の事業につきましては、売上高0百万円、営業損失2百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて14百万円増加し、3億11百万円となりました。これは主として、売掛金が30百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて9百万円増加し、8億52百万円となりました。これは主として、投資有価証券が13百万円増加したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて23百万円増加し、11億63百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億19百万円減少し、6億75百万円となりました。これは主として、短期借入金が70百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて0百万円減少し、2億15百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億19百万円減少し、8億91百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、2億72百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の11.3%から23.4%となりました。

(キャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ26百万円減少し、1億91百万円となりました。

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は1億7百万円となりました。これは主として、税金等調整前当期純利益によるものであります。

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は63百万円となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出によるものであります。

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は70百万円となりました。これは主として、短期借入金の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、当第2四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成24年5月11日に発表しました平成25年3月期通期の業績予想並びに個別業績予想を修正いたしました。

なお、詳細につきましては、平成24年11月13日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度の減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

1 税金費用の計算

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成23年3月期に引続きまして、平成24年3月期におきましても営業損失20,789千円となっております。なお、当第2四半期連結累計期間においては営業利益24,778千円、経常利益20,595千円、四半期純利益131,448千円を計上しております。

平成25年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様がご満足し、今後もご来園していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマに話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充やアトラクションの新設などを行っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めながら、新規事業への投資を検討するとともに、既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施のため、経費・人材配置の見直しなど、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	220,039	191,741
売掛金	5,028	35,429
未収入金	11,065	11,641
商品等	13,394	13,243
短期貸付金	—	20,000
その他	48,742	41,367
貸倒引当金	△1,526	△2,397
流動資産合計	296,745	311,025
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	402,400	395,005
土地	270,252	270,252
その他	70,886	78,538
有形固定資産合計	743,539	743,796
無形固定資産		
のれん	122	—
無形固定資産合計	122	—
投資その他の資産		
投資有価証券	76,987	90,535
長期貸付金	25,680	24,420
長期化営業債権	96,205	96,205
破産更生債権等	2,466	2,466
その他	20,433	16,029
貸倒引当金	△121,851	△120,591
投資その他の資産合計	99,920	109,064
固定資産合計	843,582	852,860
資産合計	1,140,328	1,163,886

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	66,404	81,757
短期借入金	170,002	100,000
未払金	462,716	400,127
前受金	11,042	17,121
預り金	10,371	7,745
未払法人税等	7,992	4,311
賞与引当金	27,063	11,733
債務保証損失引当金	20,000	20,000
事業構造改善引当金	15,600	12,400
その他	3,938	20,416
流動負債合計	795,130	675,612
固定負債		
退職給付引当金	174,420	173,072
繰延税金負債	—	1,615
その他	41,580	41,200
固定負債合計	216,000	215,888
負債合計	1,011,131	891,500
純資産の部		
株主資本		
資本金	268,591	268,591
利益剰余金	△116,996	14,408
自己株式	△13,281	△13,249
株主資本合計	138,313	269,750
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△9,296	2,635
その他の包括利益累計額合計	△9,296	2,635
新株予約権	180	—
純資産合計	129,197	272,385
負債純資産合計	1,140,328	1,163,886

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	1,194,823	1,147,626
売上原価	493,291	478,281
売上総利益	701,532	669,344
販売費及び一般管理費	658,911	644,565
営業利益	42,620	24,778
営業外収益		
受取利息	309	265
償却債権取立益	9,132	300
その他	13,875	7,410
営業外収益合計	23,317	7,976
営業外費用		
支払利息	1,925	1,895
為替差損	12,783	10,264
その他	9	—
営業外費用合計	14,718	12,159
経常利益	51,219	20,595
特別利益		
新株予約権戻入益	5,985	180
債務免除益	701	10,516
債務消滅益	—	101,354
関係会社株式売却益	2,850	—
特別利益合計	9,537	112,051
特別損失		
投資有価証券評価損	17,387	—
減損損失	923	289
特別損失合計	18,310	289
税金等調整前四半期純利益	42,446	132,357
法人税、住民税及び事業税	689	908
法人税等合計	689	908
少数株主損益調整前四半期純利益	41,757	131,448
少数株主損失(△)	△4,109	—
四半期純利益	45,866	131,448

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	41,757	131,448
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,738	11,931
その他の包括利益合計	△5,738	11,931
四半期包括利益	36,019	143,380
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,128	143,380
少数株主に係る四半期包括利益	△4,109	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	42,446	132,357
減価償却費	31,531	32,329
減損損失	923	289
のれん償却額	367	122
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△100	△388
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△67	△1,348
賞与引当金の増減額 (△は減少)	26,579	△15,329
新株予約権戻入益	△5,985	△180
受取利息及び受取配当金	△309	△265
支払利息	1,925	1,895
為替差損益 (△は益)	47	18
投資有価証券評価損益 (△は益)	17,387	—
関係会社株式売却損益 (△は益)	△2,850	—
償却債権取立益	△9,132	△300
債務免除益	△701	△10,516
債務消滅益	—	△101,354
売上債権の増減額 (△は増加)	△27,363	△22,521
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△9,639	151
事業構造改善引当金の増減額 (△は減少)	△10,200	△3,200
仕入債務の増減額 (△は減少)	38,042	15,353
前渡金の増減額 (△は増加)	△25,000	—
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△22,722	7,057
未収消費税等の増減額 (△は増加)	18,012	16,587
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△1,364	52,095
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	△6,728	5,000
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△200	△380
未払法人税等の増減額 (△減少額)	△3,123	1,775
小計	51,775	109,246
利息及び配当金の受取額	989	7
利息の支払額	△1,243	△708
法人税等の支払額	△2,610	△1,280
営業活動によるキャッシュ・フロー	48,910	107,265

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	2,000
関係会社株式の売却による収入(△は減少)	△530	—
有形固定資産の取得による支出	△39,613	△41,611
貸付けによる支出	△20,000	△20,000
貸付金の回収による収入	11,530	—
その他	△3,815	△3,920
投資活動によるキャッシュ・フロー	△52,429	△63,531
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	125,000	△70,002
その他	△35	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	124,964	△70,013
現金及び現金同等物に係る換算差額	△47	△18
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	121,399	△26,298
現金及び現金同等物の期首残高	98,206	218,039
現金及び現金同等物の四半期末残高	219,605	191,741

(4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成23年3月期に引続きまして、平成24年3月期におきましても営業損失20,789千円となっております。なお、当第2四半期連結累計期間においては営業利益24,778千円、経常利益20,595千円、四半期純利益131,448千円を計上しております。

平成25年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様がご満足し、今後もご来園していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマに話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充やアトラクションの新設などを行っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めながら、新規事業への投資を検討するとともに、既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施のため、経費・人材配置の見直しなど、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,116,490	77,561	—	1,194,052	771	1,194,823	—	1,194,823
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	342	300	57,142	57,785	17,194	74,979	△74,979	—
計	1,116,833	77,861	57,142	1,251,837	17,966	1,269,803	△74,979	1,194,823
セグメント利益 (△損失)	56,900	△476	△16,380	40,042	△421	39,620	3,000	42,620

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額3,000千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,092,005	55,173	—	1,147,178	447	1,147,626	—	1,147,626
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	3,342	—	57,142	60,485	17,142	77,627	△77,627	—
計	1,095,347	55,173	57,142	1,207,663	17,590	1,225,254	△77,627	1,147,626
セグメント利益 (△損失)	52,648	△21,328	△4,375	26,944	△2,166	24,778	—	24,778

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. 売上高の調整額△77,627千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの変更に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

1. 当社子会社である株式会社サボテンパークアンドリゾート（以下「S P R社」という）は、平成24年10月1日を効力発生日として、S P R社の営む伊豆四季の花公園及び伊豆海洋公園ダイビングセンターの施設運営事業（以下「本件事業」という）を会社分割（新設分割）し、その事業を新設する株式会社伊豆四季の花・海洋公園（以下「新設会社」という）に承継いたしました。

(1) 会社分割の目的

S P R社が展開する本件事業を会社分割し、新設会社に承継することにより、事業環境の変化に応じた適正な事業構造を構築し、経営意思決定の迅速化や多様化する顧客ニーズに応えるサービスの提供を図り、収益の最大化を目指すことを目的としています。

(2) 会社分割の要旨

①会社分割の日程

分割計画書に係る承認取締役会 平成24年8月13日

分割計画書に係る分割会社の承認臨時株主総会 平成24年8月13日

分割期日（効力発生日） 平成24年10月1日

②分割方法

S P R社を分割会社とし、株式会社伊豆四季の花・海洋公園を新設会社とし設立する新設分割です。

③ 株式の割当て

新設会社が本件分割に際して発行する株式は200株であり、全ての株式をS P R社に割当交付します。

④ 分割により減少する資本金等

本件分割によるS P R社の資本金等の変動はありません。

⑤ 新設会社が承継する権利義務

新設会社は、本件事業に属する資産又は負債等の権利義務（但し、雇用契約は除く）を承継いたします。なお、本件分割により新設会社が承継する債務は、重畳的債務引受の方法により承継するものといたします。

⑥ 債務履行の見込み

本件分割において、S P R社及び新設会社の負担すべき債務につきましては、履行の見込みに問題がないと判断しております。

(3) 分割当事会社の概要

	分割会社 (平成24年3月31日現在)	新設会社 (平成24年10月1日予定)
1. 商号	株式会社サボテンパークアンドリゾート	株式会社伊豆四季の花・海洋公園
2. 本店所在地	静岡県伊東市	静岡県伊東市
3. 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 籠池 賢二	代表取締役社長 籠池 賢二
4. 主な事業内容	伊豆シャボテン公園、伊豆ぐらんぱる公園、伊豆高原旅の駅ぐらんぱるぽーと、伊豆四季の花公園及び伊豆海洋公園ダイビングセンターの施設運営事業及びこれに付帯する事業の経営	伊豆四季の花公園、海洋公園ダイビングセンター及びこれに付帯する事業の経営
5. 資本金	5,000万円	2,632万円
6. 設立年月日	平成16年11月12日	平成24年10月1日
7. 発行済株式数	9,200株	200株
8. 決算期	3月期	3月期
9. 大株主及び持株比率	ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社 100%保有	株式会社サボテンパークアンドリゾート 100%保有
10. 純資産	△134百万円	52百万円
11. 総資産	837百万円	150百万円
12. 従業員数	93人	0人

(4) 分割する事業の概要

伊豆四季の花公園及び伊豆海洋公園ダイビングセンターの施設運営事業

(5) 会社分割後の状況

分割会社であるSPR社の商号、事業内容、本店所在地、代表者、資本金、決算期については、本件分割による変更はありません。